

資料 9

農作物共済における金額被害率の推移（麦、全国平均）

（単位：％）

年産	麦	主 な 被 害
平成 6	7.0	
7	25.8	北海道で7～8月の風水害の発生及び断続的な降雨により主として小麦に穂発芽が発生。
8	21.5	北海道で日照不足により細粒・未熟粒が発生。また、赤かび病及び穂発芽が発生。
9	9.0	
10	12.4	
11	13.0	
12	7.9	
13	7.1	
14	6.8	
15	6.6	
16	3.7	
17	4.4	
18	7.8	
19	3.4	
20	4.3	
21	21.1	北海道で7月の低温、日照不足・長雨により登熟が阻害、穂発芽が多発。
22	31.4	北海道で出穂期から収穫期の高温・降雨、九州地方で生育期の降雨、春先の低温・日照不足により収穫量が減少。
23	14.7	
24	7.2	
25	7.4	
26	4.6	
27	2.6	
28	14.5	北海道で6月の出穂期の日照不足により生育が不良。また、8月の収穫期の降雨により穂発芽が発生。
6～25年産 平均 ①	11.1	
9～28年産 平均 ②	9.5	
②／①	85.3	

（備考）金額被害率とは、共済金を共済金額で除したもの。